

令和 5 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2023 年 10 月 13 日

学 長 殿

所属部局・職名 福島大学 大学院

申請者名 矢内 美裕

助成の区分 (該当するものに○)	○学会参加助成・学術出版助成・学術論文掲載料等助成
事業名	令和 5 年度第 62 回 大学美術教育学会 香川大会
成果の概要	<p>開催地・期日：香川大学 教育学部 幸町キャンパス 令和 5(2023)年 9 月 23 日(土)・24 日(日)</p> <p>発表内容：テーマ「絵画における色彩とマチエール」</p> <p>私は、上記のテーマのもと、以下の内容について口頭発表を行なった。</p> <p>油彩画による実制作を通して、筆致（タッチ）の重なりによる絵画表面の凹凸、マチエールによって、いかに各々の絵画と色彩の印象が変化するかを考察した。具体的には、当時の美的価値観や描く際に用いられた材料を調査しつつ、アカデミックな手法や、近代以降の画家が用いた手法を球体に描く中で考察したものを発表した。また、今日の「美術」の鑑賞では、絵画作品の描かれた背景や主題、制作者が作品に込めた心情と比較して、実際に制作で用いられたキャンバスや油彩などの材料、素材や技法について学ぶ機会は少ないように考えている。制作者の意図する作品のイメージを汲み取る上でも、画面上にあらわれたマチエールや色彩との関わり合いから作品を捉えることは重要であると考え、美術教育の視点と自身のテーマを交え発表した。</p> <p>質問では、「絵画といっても幅広く、どこまでをマチエールと定義しているのか。」や、「鑑賞教育に、具体的にどう活かしていくのか。」等、様々な視点から、意見やアドバイスをいただいた。初めての学会発表であり、自身の考えていることをうまく伝えられない部分もあったと思うが、沢山の視点から意見をいただくことができ、自身の研究の糧としていきたい。また、学会後の情報共有会でも、研究の仕方について助言をいただいた。学会で得たことを、今後の自身の自制作に活かし、研究をより深化させていきたい。</p>